

治水と利水

水は、私たちの暮らしにとって不可欠な資源であると同時に、時には水害や土砂災害など危険ももたらします。

これまでに幾多の水害に襲われてきた私たちのふるさと。まだ記憶に新しいのは平成16年10月20日に発生した台風23号災害です。地域を流れる河川が氾濫し、流域の家屋や農地などに甚大な被害をもたらしました。

こうした水害から人びとの生命、財産、生活を守るための取り組みが「治水」です。また、川の



▲八木町では過去に大堰川の氾濫で市街地が水につかりました

暮らす

・治水と利水
・水環境を守る

インタビュー

人が集まる大堰川を
後世に伝えたい

榎原幹夫さん（八木町八木）



昭和35年、台風16号の襲来で大堰川決壊の水害にあった当時、私は25歳で八木町消防団自動車部の消防団員でした。台風が近づく中、水防資材のくいなどを運搬した記憶は今でも鮮明に残っています。昭和28年にも駅前通りの家屋が2階まで浸水する大きな水害を経験していたため、護岸工事の完成を切望しながら、台風の時節には毎年心配していました。

私の家が大堰橋の近くにあるため、大雨が降ると低地に家のある人から水位を問う電話がよくありました。しかし、日吉ダムや護岸工事が完成した今は、そんな電話もなく、安心して暮らすことがで



▲整備された大堰川河川敷はイベントなどが行われ多くの人でにぎわいます

きるようになりました。

人の命を守るために護岸工事は必要です。かつての大堰川は、魚が多くすみ、子どもたちが川遊びをし、堤防には多くの桜の木がある自然豊かな憩いの場でした。護岸工事のため、やむなく桜の木も何本か犠牲になり、川も浅くなりましたが、河川敷は整備され、ウォーキングも楽しめるようになっていきます。その一方で、バーベキュー後などのゴミも目立つようになったのは大変残念です。

美しく、人が集まる大堰川を、孫たちに引き継ぎたいものです。